

全天候型データ記録装置
KADEC21シリーズ

無電源総合気象観測装置
Eメール式無電源総合気象観測装置

KADEC21－ME－N2

取扱説明書

ノースワン株式会社

はじめに

このたびは、Eメール式無電源総合気象観測装置「KADEC21-Me-N2」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。

Eメール式無電源総合気象観測装置 KADEC21-Me-N2は、KADEC21-Meの標準機能にEメール機能を追加したモデルです。記録計本体にはTRON OS(オペレーティングシステム)搭載によって、操作性に優れ、低消費電力化をさらに進めた次世代のデータロガーです。

KADEC21-Me-N2は風向風速、外気温度、湿度、日照時間、日射量、雨量、気圧の各気象データを集録するためのデータロガーです。従来の総合気象観測装置では、実現不可能とされていた商用電源の無い場所でも、記録計内部標準電池だけで7ヶ月以上連続測定(1時間間隔)ができます。

――目次――

1.各部名称と機能3
2.センサの接続4
3.操作方法8
4.LCD表示の意味と設定方法9
5.電池12
6.技術資料14
7.別売オプション18
8.仕様19
9.外形寸法20



ご注意及びお願い

- ※ 本説明書の内容の一部または、全部を許可なく無断転載することは、禁止されています。
- ※ 本説明書の内容に関して予告なく変更することがあります。
- ※ 本説明書の内容について、ご不明な点等お気づきのことがございましたら販売店へご連絡ください。
- ※ 運用した結果の影響につきましては、前項に関わらず責任をおいかねますのでご了承ください。
- ※ 本誌で記載される商品名等は関係各社の登録商標です。
- ※ 弊社KADEC®は調査目的用機器です。万一弊社製品の故障、誤動作等に起因する損害がお客様に生じた場合においても、弊社はその責任を負いません。

ノースワン株式会社

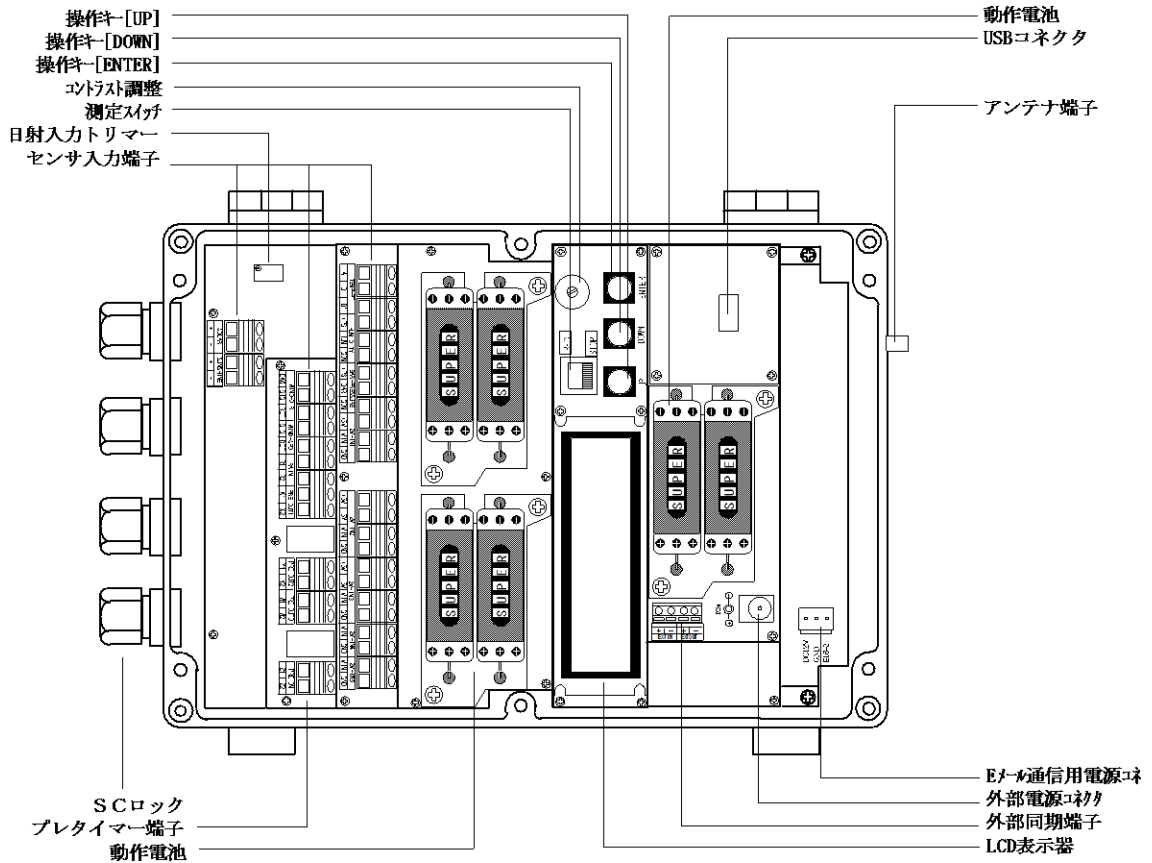
〒001-0025 北海道札幌市北区北25条西13丁目1-28

TEL.011(708)0230 FAX.011(708)0232

<http://www.north-one.net/>

改定日 Rev1.3 2013年04月22日

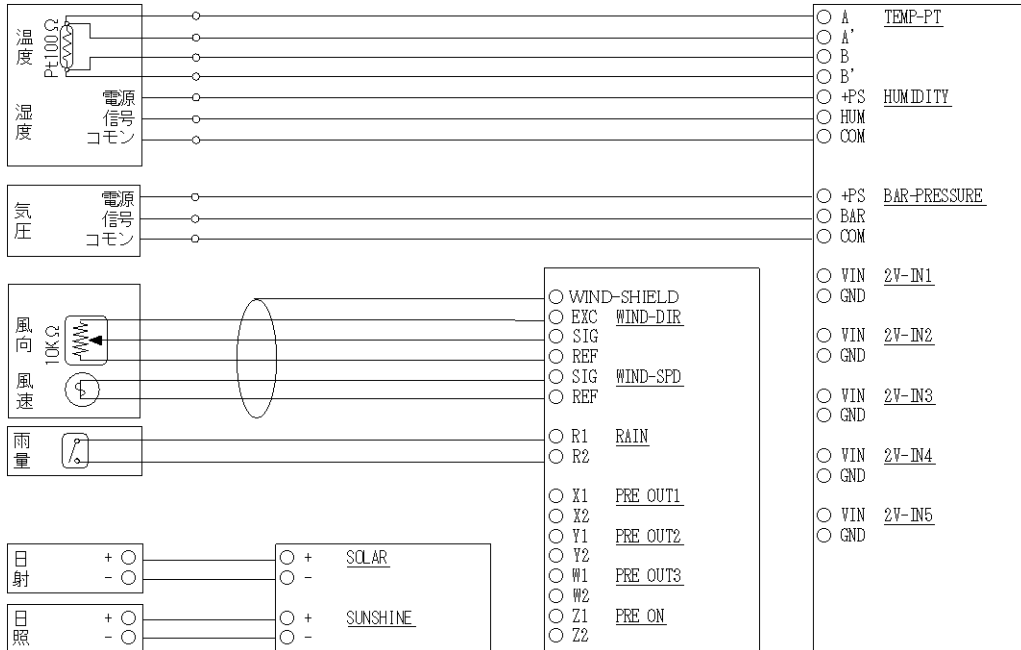
1. 各部の名称と機能



- | | |
|---------------|--|
| センサー端子台 | : 各種センサーを接続します。 |
| 動作電池 | : 測定用動作電池です。(CR123Aを使用) |
| LCD表示器 | : 記録値など各種の値を表示します。 |
| 外部同期端子 | : 計測などのタイミング信号の入出力端子です。 |
| プレタイマー端子 | : 外部電源が必要なセンサや強制通風筒用ファンなどを測定インターバルのタイミングに合わせて、設定のプレ時間でON/OFFします。 |
| コントラスト調整つまみ | : LCD表示器のコントラストを調整します。通常は中央付近で最適な状態です。 |
| 測定スイッチ | : 測定開始と測定終了(待機状態)のスイッチです。 |
| 操作キー | : UP, DOWN, ENTERキーの3キーで、記録計の各種設定を行います。 |
| USBコネクタ | : USB-MINIBケーブルで接続しパソコンと通信を行います。 |
| アンテナ端子 | : Eメール通信用の外部アンテナ(付属品)を接続します。 |
| Eメール通信用電源コネクタ | : Eメール通信用の電源を接続するコネクタです。 |

2. センサーの接続

KADEC21-Meと各センサ接続方法は、次の配線図を参照して接続してください。センサケーブルはSCロックを通して各端子に接続します。接続後、各入力チャンネルのレンジ設定および使用、未使用の設定を行ってください。正しく結線されているかどうかをメニューの入力モニタにして確認します。（「各設定および表示処理について」を参照）信号線ケーブルが30mを超す場合は、ノイズに強いツイストペアケーブルのシールド線付きを使用してください。また、風向風速計のケーブル長が50m以上超えるときは、オプションの風向風速計用ケーブル延長アダプタP17を使用してください。



2-1-1 風向風速計の接続

風速の出力は周波数出力と4極式交流発電タイプの両方に対応しています。

風向風速計を接続するときは、シールド線付きの信号ケーブルを使用してフレームアースをとってください。（風速の信号は、周波数出力ですので誘導ノイズが受けにくい『ツイストペアケーブル』を使用してください。）風向入力は、3線入力になっていますので、6芯ツイストペアケーブルを使用してください。また、シールド線は、保管箱のアース端子などに接続してください。

<簡易結線チェック方法>

風向風速計を結線しましたら、プロペラを指で回転させて、記録計のLCD表示器の出力を確認してください。また、風向データは矢羽をゆっくり回転させて、出力が変化するか確認してください。

2-1-2 温湿度計の接続

温湿度計の電源は、温湿度計接続端子の電源(+PS)に接続してください。信号ケーブルはセンサの付属ケーブル範囲内で使用してください。延長する場合はツイストペアケーブルを使用してください。シールド線と未使用の線は、保管箱のアース端子などに接続してください。

<簡易結線チェック方法>

温湿度計と標準入力端子台の結線しましたら、KADEC21-MeのLCD表示器の出力を確認してください。

2-1-3 雨量計の接続

雨量計を接続するときは、シールド線付きの信号ケーブルを使用してフレームアースをとってください。雨量計の信号端子は、プラスマイナスの極性はありません。

<簡易結線チェック方法>

雨量計を接続しましたら、雨量計のカバーを外して指先で転倒ますを軽くゆっくりと、転倒回数を数えながら転倒し、信号回数が正しく受信されているかどうか、KADEC21-MeのLCD表示器の出力を確認してください。

2-1-4 日射計の接続

日射計を接続するときは、シールド線付きの信号ケーブルを使用してフレームアースをとってください。また、周囲に高い建物や樹木等の陰が出来ないところに取り付けてください。日射計の受感部を黒い布などで覆い、日射計の接続端子台のある横の調整ボリュームを回して出力がゼロになるように調整してください。

<簡易結線チェック方法>

日射計の結線を確認しましたら、日射計の受感部を隠してKADEC21-Meの出力がゼロを表示するか、またはライト(懐中電灯)を当てて出力値が変化するかどうかを確認してください。

2-1-5 気圧計の接続

気圧計の電圧出力は標準で0~5Vですので記録計に接続する場合、2/5の分圧アダプタを入力端子とセンサの間に入れます。記録計の出力は0~2Vの入力に対して、hpの物理量に変換して記録します。物理量への変換係数を記録計内部に持たせてありますので、センサーの出力レンジを予めご指定下さい。

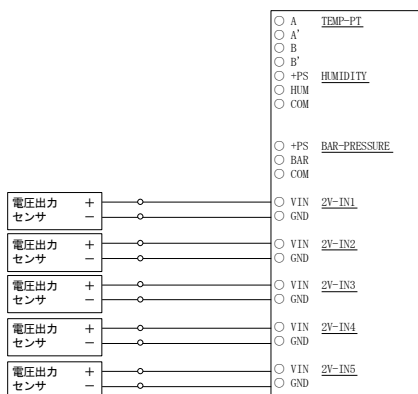
<簡易結線チェック方法>

気圧計の結線したのを確認しましたら、KADEC21-Meの出力が現在の気圧を表示しているか確認してください。

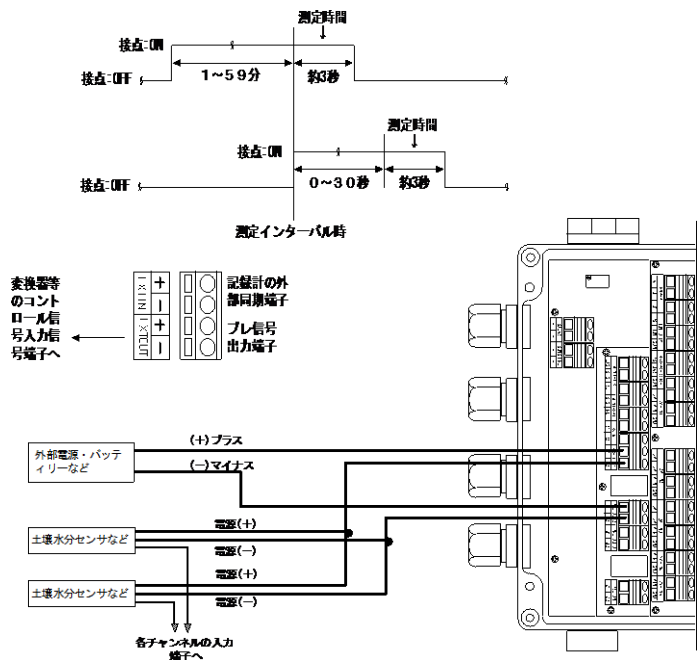
2-1-6 電圧出力センサの接続

電圧出力タイプのセンサを接続する場合、記録計の入力端子「2V-IN1から5」までの電圧入力チャンネルに接続してください。

電源供給が必要なセンサは、マルチ電源BOXまたはバッテリーを使用します。このとき、測定インターバルのタイミングに合わせて、電源をON-OFFすることによって消費電流を少なくすることができます。その配線方法とプレタイマの設定タイミングは次の図のとおりです。



項目	抵抗負荷
定格負荷	DC30V/1A AC30V/0.5A
定格通電電流	1A
接点電圧max	AC125V, DC125V
接点電流max	1A



2-2. センサ設置方法

2-2-1 風向風速計の設置

風向風速計を設置する場合、木々や・建物・他の構造物によって、風が渦をまくような場所では、風向風速の測定に影響します。一般的に、その地域を代表するような場所で、周囲に大きな建物や樹木等がなく、風通しのよい場所、世界気象機構(W. M. O)では、地上10m以上での観測を標準としています。

風向風速計のエラー信号や、トランスデューサーの破損をさけるために、アース処理を行なってください。また、アースをとる事によって、トランスデューサーを静電気から守ることもなります。風向風速計のポストは、導通性のある特別のプラスチックでできていますので、これをアースに接続します。アースをとる方法は、次の2通りがあります。

○アースされた金属パイプに、風向風速計のポストを接続して固定することによってアースされます。このとき、風向風速計のポストを固定するパイプ部分には、塗装していないこと、テープをまかないこと。

○端子ボックス内のスペア端子は、風向風速計のフレームグラウンドにつながっていますので、これにアース線を接続します。風向風速計を設置するときは、方位を確認する側と、風向風速計を取り付ける側の、2人で行なう方が良いでしょう。

2-2-2 温度湿度計の設置

外気温度湿度計を設置するときは、強制通風筒または自然通風シェルターを使用して、その内部にセンサを固定して取り付けます。センサの設置位置は、下端が地上高約1.5mになるようにします。ただし、積雪地帯では、雪面から1.5mになる位置まで治具のネジをゆるめて移動させてください。外気温度湿度を観測するときの、温度センサ使用時の一般注意事項を次に示します。

※通風または、加熱空気が検出部に直接当たらないように保持します。

※被測定物または、計器を太陽光にさらしておくことと温度変化が大きくなります。

※水しぶき、蒸気噴霧、水滴のしたたりなどのある所での測定は行なわない。

※感知部に手を触れると、センサの感知状態が変化して平衡化するまでに長い時間がかかります。

2-2-3 雨量計の設置

設置場所は平らな場所で、付近に高い建物、樹木等の障害物等(風などによる直接、間接の影響)降水状態が乱されないような所で、かつ雨量観測値がその付近を代表するような地点を選んでください。雨量センサ使用時の注意事項は次のとおりです。

※設置する高さは、受水用口金が地表面より高さ50cmになるようにします。

※雨量計が水平になるように固定してください。傾いていますと転倒マスがバランス良く転倒しません。

※自動車などの振動が直接伝わる所はさけること。

※風の影響をなるべく受けないところ。風の影響を受けますと捕捉率に影響を受けます。

2-2-4 気圧計の設置

気圧計は、空気または腐食性のない気体のゲージ圧を検出して、気圧に比例した値を出力しています。気圧計は、屋内または機器保管箱内に設置してください。気圧計を設置するときの一般注意事項は次のとおりです。

※気圧計は屋内または保管箱内に設置して、雨・風などが直接影響受けないようにしてください。

※機密性の高い保管庫内に設置するとき、気圧計の大気パイプを通気性の良い場所に開放してください。この場合、延長するチューブは折り曲がらないよう注意してください。

※強風の影響が有りそうな場所に設置するときは、圧力ポートを使用しますと風による気圧測定誤差が軽減されるでしょう。



機器設置時の注意

※KADEC21-Meと他の機器を接続するときは、各機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたままで接続すると、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

※AC100Vなどの外部電源を使用する場合、記録計の電源電圧は、DC6～9Vの範囲のACアダプタを使用してください。DC9V以上の鉛蓄電池等を使用するときは、専用のDCDCコンバータ(別売)をご使用ください。

※本製品日本国内でのみ使用可能です。海外では電源電圧や通信規格が異なるため使用できません。

※以下のような場所での保管とご使用は避けてください。

- ・直射日光の当たる場所や、発熱する機具の近く
- ・揮発性ガス、腐食性ガスの発生する場所
- ・衝撃や振動の加わる不安定な場所

※KADEC21-Meをオンラインで使用する場合、電源ラインや、電話回線、電力線、鉄道電力線、無線機等の電磁誘導によるノイズを受けます。なるべくフレームグランド端子を利用して、アース設置を行なってください。設置の基準は第3種接地工事以上になるようにしてください。(設置抵抗の許容最大が100Ω)また、電源ラインからのノイズ対策として、ラインフィルタをつけると良いでしょう。

※特にセンサは、自然環境下で精度を維持しなくてはなりませんので、最低年1回の点検を行なってください。また、最低2年に1回機器のオーバーホールも行なうことをおすすめします。

3. 操作方法

3-1. 測定開始および終了

測定スイッチを[REC]にすると、設定された条件で測定を開始します。[STOP]にすると測定終了(待機状態)となります。

<標準設定状態>

LCD設定メニューの「Default Setting」を実行したときの、標準的な設定です。(4 LCD表示の意味と設定方法を参照)

特にご指定がない場合、工場出荷時には標準的な設定で出荷しますが、出荷時に設定変更をご指定の場合は、「Default Setting」を実行しても、工場出荷時の状態には戻りませんのでご注意ください。

- ・測定インターバル : 10分
- ・プレタイマー機能 : OFF
- ・アフタースタート機能 : OFF
- ・通信速度 : 38400bps
- ・入力モード : 1ch=風向・風速、2ch=瞬間最大風速・風向・起時
: 3ch=気温、4ch=湿度、5ch=雨量、6ch=気圧、7ch=日射量
: 8ch=日照時間、9ch=未使用、10ch=未使用、11ch=未使用
: 12ch=未使用、13ch=未使用

3-2. 記録計の設定

操作キーを押すとLCD表示器にメッセージが表示します。[UP]または[DOWN]キーを操作して設定メニューを選択し[ENTER]キーを押します。設定値および表示内容の変更は、[UP]または[DOWN]キーを操作し、[ENTER]キーで決定します。

設定メニューの詳細は、4 LCD表示の意味と設定方法を参照してください。

※測定中でも設定変更は可能です。

※キー操作が90秒以上ないときは、LCD表示は自動的に消えます。

※キー操作は、通信ソフトでも同様の操作ができます。

3-3. 通信によるデータ回収

3-3-1. データ回収

パソコンに付属(弊社HPからダウンロード可)のUSBドライバをインストールしてください。ドライバインストール完了後、本機USBコネクタにUSB-MINIBタイプケーブルを差し込んで、パソコンに接続します。次に通信ソフトを起動して、データの回収や各設定操作を行ってください。

※データ回収や各設定操作は、測定中でも実行できます。

※USBのパソコンが割当てのCOMポート番号に、ご注意ください。デバイスマネージャーにて確認・変更可能です。

3-3-2. KADEC21通信ソフト

KADEC21通信ソフトは、Windows98以降で動作し、KADEC21シリーズ記録計と通信接続を行い記録されたデータの回収を行います。また、KADEC21シリーズ記録計本体のLCDとスイッチを画面上でモニターして、記録条件等の各種設定を遠隔操作することもできます。

回収データをパソコンに保存することができます。保存したデータは、圧縮されたバイナリファイルですが、テキスト形式に変換し、表計算ソフト(エクセル)などで取り扱い可能なCSVファイルを作成します。なお、データ回収を行った場合、バイナリファイルと同時にCSVファイルが自動的に作成されます。

通信ソフトの操作方法は、ソフトウェアのヘルプを参考にして下さい。

4 LCD表示の意味と設定方法

LCD表示に表示されるメニュー項目の意味と設定方法について説明します。
各処理メニューを選択して実行する場合、操作キーを押すと、表に示す順に表示が変化します。表示している処理を実行するときは、[ENTER]キーを押します。次の処理メニューに変更するときは[UP]または[DOWN]キーを操作します。

メニュー項目	表示例	操作スイッチ	動作内容
オープニング	KADEC 21 Series North-one Co., LTD		キー操作待ち
ROMバージョン	ROM Version Me 5. 0 2011/06	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示のみ
日付	Date 02/01/01	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
時刻	Time 11:22:33	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
インターバル	Interval 60min	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
プレタイマー	Preset Timer OFF	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
アフタースタート	After Start 00/00 00:00	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
通信速度	COM Speed 38400bps	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
入力モード	Mode ch 1 Wind Dir	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
入力モニタ	Monitor ch 1 190	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示のみ
記録データ	Data 18-11:22:00 ch 1 180	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示のみ
RTCアジャスト	RTC Adjust 25	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
メモ	Memo 1 Kadec (メモ1)	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/変更
電池残量	BATT [■■■■■■■]	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示/残量リセット
出荷時設定呼出	Default Setting Yes, No	[UP] [DOWN] [ENTER]	変更のみ
ネットインターバル	NET Interval OFF	[UP] [DOWN] [ENTER]	ネット回収実行
ネット通信テスト	NET Test	[UP] [DOWN] [ENTER]	ネット通信実行
通信契約開始	NET OTASP	[UP] [DOWN] [ENTER]	通信開始実行
通信契約休止	NET OTAPA	[UP] [DOWN] [ENTER]	通信休止実行
モジュールシリアル	Module Serial 8ALDD000000	[UP] [DOWN] [ENTER]	表示のみ

測定スイッチ操作時の表示

測定開始	Recording start interval 1min	測定スイッチ [REC]	表示のみ
測定終了	Recording stop Count 15564	測定スイッチ [STOP]	表示のみ

4-1 各メニュー項目の操作方法

メニュー項目	操作方法
オープニング	キー操作待ち
ROMバージョン	
日付	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Date」を表示させます。 ② [ENTER]キーを押すと年、月、日の順で点滅します。 ③ 年月日の正しい数値を[UP][DOWN]キーで設定します。 ④ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
時刻	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Time」を表示させます。 ② [ENTER]キーを押すと時、分、秒の順で点滅します。 ③ 時分秒の正しい数値を[UP][DOWN]キーで設定します。 ④ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
インターバル	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Interval」を表示させて、[ENTER]キーを押します。 ② [UP][DOWN]キーで目的のインターバル項目に合わせ、[ENTER]キーを押します。 ③ [UP][DOWN]キーで目的のインターバル時間に合わせます。 ④ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 <p>※インターバルの設定可能な時間は、機器仕様を参照してください。</p>
プレタイマー	<ol style="list-style-type: none"> ① ①メニュー項目の「Preset Timer」を表示させて、[ENTER]キーを押します。 ② [UP][DOWN]キーで目的のプレ時間または「OFF」に合わせます。 ③ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 <p>※プレタイマーの設定可能な時間は、0～59分の1分きざみです。 ※プレタイマー機能については、プレタイマー機能を参照してください。</p>
アフタースタート	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「After Start」を表示させます。 ② [ENTER]キーを押すと月が点滅します。 ③ 測定を開始したい月を[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。 ④ 測定を開始したい日を[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。 ⑤ 月日設定と同様な操作で時分を設定します。 ⑥ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
通信速度	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「COM Speed」を表示させて、[ENTER]キーを押します。 ② [UP][DOWN]キーで目的の通信速度に合わせます。 ③ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 <p>※通信機能については、通信機能を参照してください。</p>
入力モード	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Mode」を表示させて、[ENTER]キーを押します。 ② [UP][DOWN]キーで目的の入力チャンネルに合わせ、[ENTER]キーを押します。 ③ [UP][DOWN]キーで目的の入力モードに合わせ、[ENTER]キーを押します。 ④ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 <p>※各チャンネルごとに記録要素が割り付けられていますので、記録する場合は「Enable」、記録しないときは「Disable」を選択して下さい。</p>
入力モニタ	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Monitor」を表示させます。 ② 表示チャンネルを変更するときは、[ENTER]キーを押して、表示したいチャンネルを[UP][DOWN]キーで設定して、[ENTER]キーを押します。
記録データ	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「Data」を表示させます。 ② 現在表示中データは最新の記録データです。 ③ さかのぼって記録データを表示するときは、[DOWN]キーを押します。
RTCアジャスト	<ol style="list-style-type: none"> ① メニュー項目の「RTC Adjust」を表示させて、[ENTER]キーを押します。 ② [UP][DOWN]キーで目的のRTC値に合わせ、[ENTER]キーを押します。 ③ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 <p>※RTCアジャストについては、RTCアジャストを参照してください。</p>

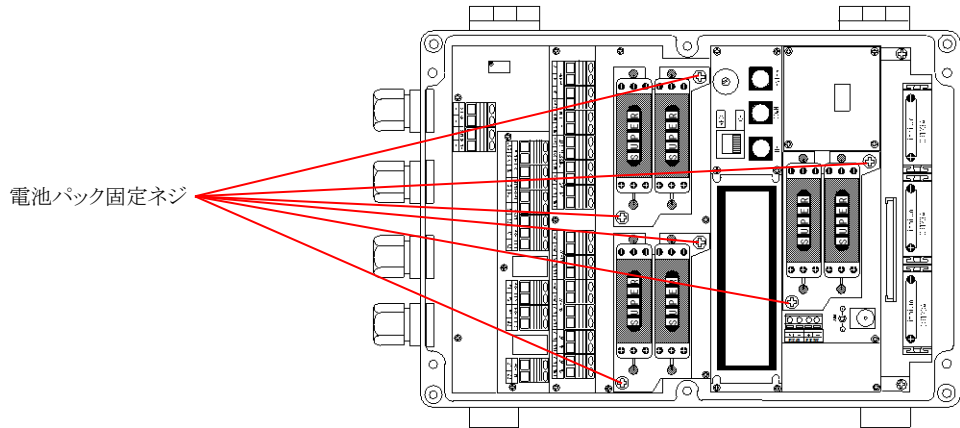
メニュー項目	操 作 方 法
メモ	① メニュー項目の「Memo」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押して、メモ1から6のいずれかを選択して、[ENTER]キーを押します。
	③ メモの内容を変更するときは、1文字ずつの変更となります。
	④ 1文字ずつ[UP][DOWN]キーを操作して、[ENTER]キーを押します。
	⑤ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
電池残量	① メニュー項目の「BATT」を表示させます。
	② 内蔵バッテリーの残量が表示します。
	③ 動作電池残量をリセットするときは、[ENTER]キーを押します。
	④ [UP][DOWN]キーを操作して、動作電池の種類を選択し、[ENTER]キーを押します。
	⑤ 「BATT RMIN RESET? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。 ※動作電池の残量リセットは、動作電池交換時以外行わないでください。
標準設定呼出	① メニュー項目の「Default Setting」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押しますと、「Yes, No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	③ メニュー項目の「Auto Download」を表示させて、[ENTER]キーを押します。
Eメール送信 インターバル	① [UP][DOWN]キーで「NET Interval」を表示させます。
	② [UP][DOWN]キーで目的の送信インターバル項目に合わせます。
	③ 「Change? Yes, No」が最後に表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	※送信インターバルの設定可能な時間は、機器仕様を参照してください。
テストメール送信	① メニュー項目の「NET Test」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押しますと、「Yes, No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	③ 通信進行バーが表示されます。テストメール送信に成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。
通信契約の開始	① メニュー項目の「NET OTASP」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押しますと、「Yes, No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	③ 通信進行バーが表示されます。OTASPに成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、Eメール通信用電源、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。また、OTASPはモジュールの通信契約が終了していないとできません。また、一度OTASPを成功しますと、OTAPAを実行し通信休止後、再度OTA契約を行わないと実行できません。
通信契約の休止	① メニュー項目の「NET OTAPA」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押しますと、「Yes, No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	③ 通信進行バーが表示されます。OTAPAに成功しますと、[OK]が表示されます。失敗した場合は「NG」が表示されます。失敗した場合は、通信設定及び電波状態を確認して再度おこなってください。また、OTAPAは、モジュールのOTASPが終了し、尚且つ休止申し込みが終わっていることが必要です。
モジュールシリアル	① メニュー項目の「Module Serial」を表示させます。
	② [ENTER]キーを押しますと、「Yes, No」が表示しますので、[UP][DOWN]キーで「Yes」または「No」を選択して[ENTER]キーを押します。
	③ 通信進行バーが表示され、モジュールシリアルが表示されます。このモジュールシリアルは、モジュール通信契約に必要です。
	※モジュールシリアルが読み込めない場合は、Eメール通信用電源が供給されていない場合があります。電源を確認してください。

5 電池

5-1 動作電池の交換

記録計の動作電池を交換するときは、測定スイッチをオフにしてから行います。動作用の電池は、電池パックの固定ネジを緩めて記録計の基盤から取り外します。ただし、電池パックが2段重ねで取り付けられているときは、上の電池パックから取り外してください。新しい電池パックを再び、記録計の基盤に外した固定ネジで固定します。固定ネジは、電池パックを固定する以外に電極の役割もしています。これは、長期間測定する間の接触不良を少なくするためです。

記録計の動作電池として、リチウム電池パックと市販のカメラ用電池ホルダ(CR123A×2)を使用することができます。この電池を交換するときは、電池の極性を確認して電池ホルダに入れて固定バンドで固定してください。また、CR123Aを使用するときは、設置条件を十分考慮して、ご使用ください。



- ※動作電池固定ネジを締める場合、強く締めすぎるとプリント基板側のネジ固定部が破損する場合があります。緩めた時と同じ程度に締めて下さい。
- ※動作電池固定ネジは、電池の固定と記録計の電源電極を兼ねています、プリント基板のネジ固定部分が破損すると、記録計に電源供給ができなくなり動作しないことがあります。
- ※動作電池の取付けの方向は上記の通りです、電池交換時には向きに十分ご注意ください。
- ※雨天や降雪時の電池交換作業は、水滴が記録計に付着しない様に注意して作業して下さい。

5-2 電池残量のリセット

動作電池を交換後、メニュー項目の「BATT」を表示させ、動作電池残量のリセットを、必ず実行してください。

もし、このリセット操作を行わない場合、動作電池の容量が有るときでも正確な残量計算ができず、交換前の状態のままです。リセット操作時のメニュー表示は次の通りです。

LCD1行目	BATT TYPE SERECT	使用する動作電池を選択して下さい。	
LCD2行目	ER6	NRH-B06を1個使用	1800mAh
	ER6×2	NRH-B06を2個使用	3600mAh
	ER6×3	NRH-B06を3個使用	5400mAh
	CR123A	カメラ用電池CR123Aを使用	900mAh

電池残量のリセット時に、選択した動作電池の容量を記録計内部に設定します。

- ※電池残量の表示機能は、計算による予測値です。あくまで目安としてご使用下さい。

5-3 測定動作日数

KADEC21-Meの各インターバルに対する最大動作日数は次のとおりです。ただし、記録計のメモリ容量を無制限としています。

リチウム電池パック3個			(11要素)	カメラ用電池ホルダ3個			(11要素)
インターバル	測定データ数	測定日数	測定月数	インターバル	測定データ数	測定日数	測定月数
10分	約 194,964データ	約123日	約4.1ヶ月	10分	約 97,482データ	約61日	約2.0ヶ月
30分	約 118,195データ	約223日	約7.4ヶ月	30分	約 59,097データ	約111日	約3.7ヶ月
60分	約 74,305データ	約281日	約9.3ヶ月	60分	約 37,152データ	約140日	約4.6ヶ月



※通信および表示器の動作消費電流は、測定日数の計算に含まれていません。
 ※カタログ上のCR123A(カメラ用電池)は、1本当りの容量を900mAhとして、計算しています。

5-4 Eメール通信用電源

Eメール通信用電源は付属の専用ケーブルにてDC12Vを供給する必要があります。商用電源(AC100V)が使用できる環境の場合は、ACアダプタなどで供給することも可能です。商用電源が使用できない環境の場合、鉛シール蓄電池などで供給する必要があります。以下に鉛シール蓄電池を利用した場合の動作日数の記載しますので、設置時の参考になしてください。

通信インターバル	1ヶ月消費電流	自己放電率	運用期間例	蓄電池容量
5分	18.0Ah	70%	3ヶ月	77.2Ah以上
10分	9.0Ah	70%	3ヶ月	38.6Ah以上
60分	1.5Ah	70%	3ヶ月	6.5Ah以上
24時間	0.1Ah	70%	3ヶ月	0.3Ah以上

※上記の日数計算には、通信トライ(最大で4回まで行います)は考慮しておりません。電波状態が悪い環境ではトライ回数が増えまので、動作日数が減ることもあります。また鉛シール蓄電池は低温環境では性能が劣化しますので、動作日数が減少することがあります。
 低温環境での動作の場合、オプションで低温環境用スーパーリチウム電池(KDC-B16-2)もごございます。

6 技術資料

6-1 記録計のデータ回収について

KADEC21シリーズは記録計本体に97280データ分の記録メモリを持っています。データ回収時に、この97280データを全て回収する方法と、未回収の部分のみ回収する2つの回収方法が選択できます。それぞれ、「全データ回収」、「最新データ回収」と呼んで、記録計のLCD表示メニューでは[ALL],[NEW]と表示されます。

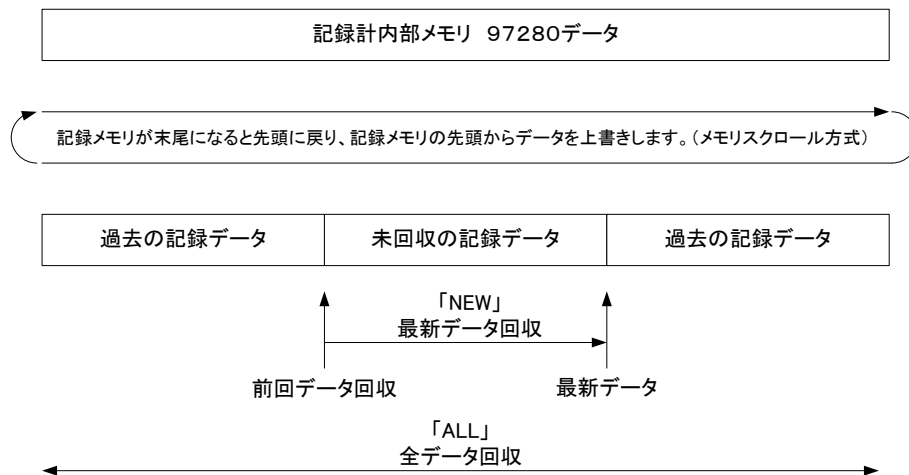
以下にその違いを説明します。

6-1-1 全データ回収「ALL」

記録計の内部メモリ97280個すべてを回収します。この方法でデータ回収をおこなえば、未回収記録データに過去の記録データを含め記録計内部のデータをすべて回収します。過去の記録データは最新の記録データで上書きされない限り記録計に残っています。万が一、過去に回収したデータが紛失した場合などはこの方法で上書きされていない過去の記録データを全て回収することができます。

6-1-2 最新データ回収「NEW」

前回データ回収した記録データの次のデータから現在までの未回収記録データを回収します。この方法でデータ回収をおこなえば、未回収記録データだけを回収しますので短時間で回収動作が完了します。

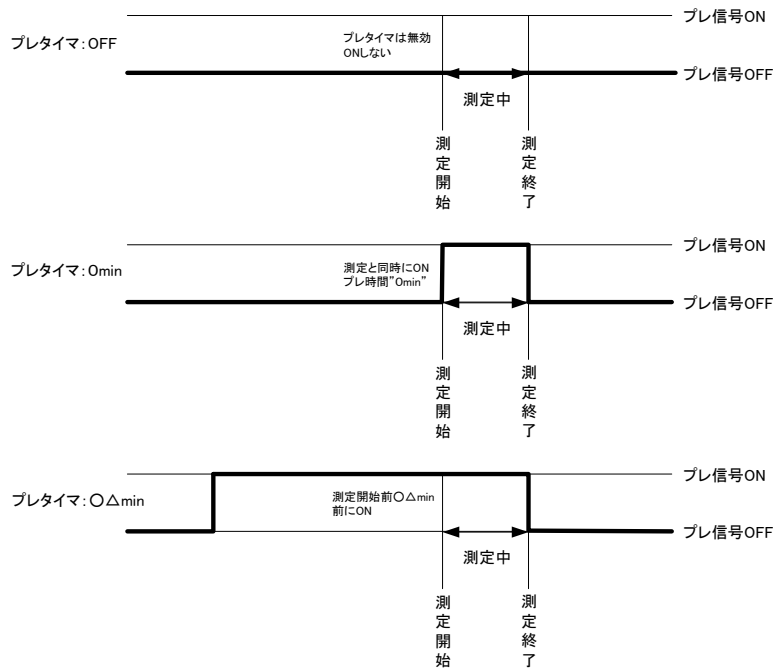


6-2 プレタイマーについて

プレタイマー機能は、記録計の測定インターバルと同期して、外部のセンサーやアンプなどの機器の電源をオン/オフするための機能です。電源の必要な入力機器は、常時電源を供給しますと、電池の消耗を早めます。長期間の測定の場合、大型のバッテリーが必要となってきます。そこで、測定事前にセンサやアンプなどの出力機器に測定インターバル前に電源をオンにする信号を出力する機能がプレタイマー機能です。

※測定インターバルを越えるプレ時間をセットしますと、接点出力は常にオンとなります。

※出力はリレー接点出力で電気的特性は次のとおりです。定格負荷:DC30V/1A,AC30V/0.5A、 定格通電電流:1A、最大接点電圧:AC125V,DC125V、最大接点電流:1Aです。



6-2-2 外部同期端子について

従来のKADEC21シリーズでは、プレタイマー機能で設定した時間で外部同期端子「EXTOUT」がON/OFFしますが、KADEC21-MST1では「EXTOUT」端子のON/OFFタイミングは以下の場合にONしますのでご注意ください。

①LCD表示器がONしている時

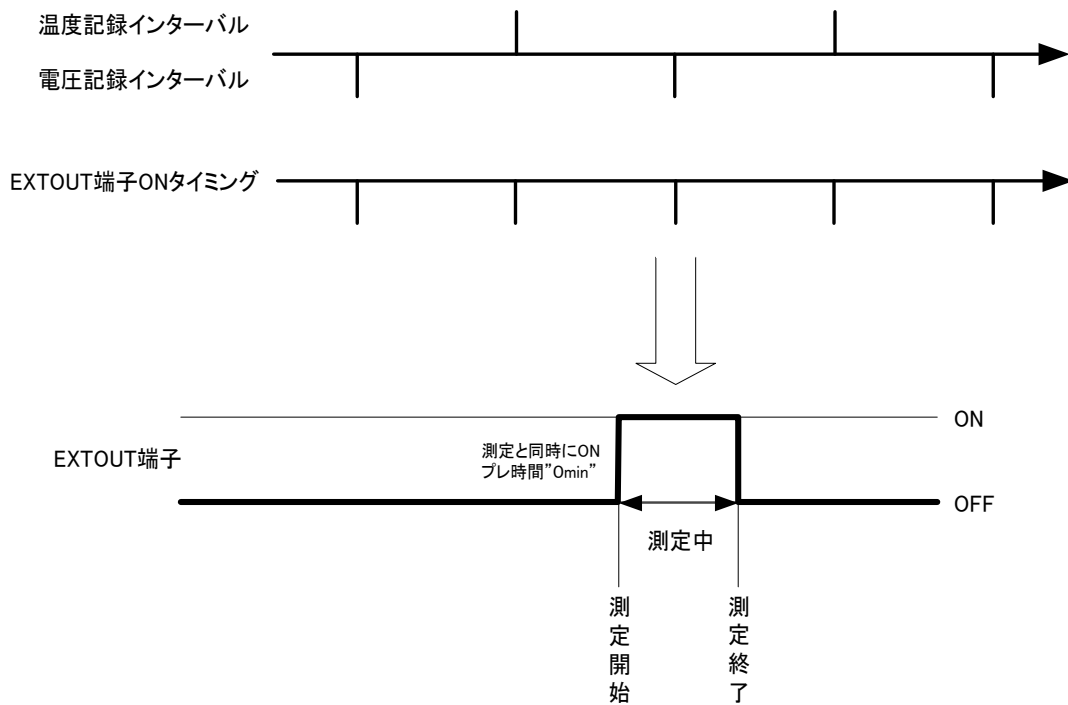
入力モニタ機能で入力値をモニタリングしている場合「EXTOUT」はONします。

②温度・電圧のデータ取込時

温度と電圧の値を取込む時に内部のA/Dコンバータが動作します、A/DコンバータがONの時「EXTOUT」端子がONします。「EXTOUT」端子のONのタイミングはプレタイマ時間がありません。温度・電圧の設定した記録インターバル時の測定開始時にONして、測定終了時にOFFします。

○出力はトランジスタによる有電圧出力で、負荷により記録計の動作電池の消費電流が増加します。

○オン状態のときは、負荷に動作電池から電流が流れ続けますので、動作電池の消費電流には注意して下さい。



6-3 RTC誤差調整機能

記録計内部にはRTC(Real Time Clock)と呼ばれる時計を内蔵しています。出荷時には常温環境下において月差約±10秒以下になるように調整しています。このRTCは水晶発振を基に時刻を刻んでいますが、極端な温度変化の環境下に記録計を設置した場合などは、月差がさらに大きくなる場合もあります。
 ※個々のRTCの誤差は統計的な標準偏差により規定されます。

RTC誤差調整機能は、特殊な装置を必要とせずに記録計内部の時計(RTC)の進みまたは、遅れを調整することができます。この機能は、20秒に1度、RTCのクロック数を変化させることにより、時計の進み遅れを調整しています。設定方法は、時計が遅れているときは現在の設定値を減らし、進んでいるときは設定値を増やします。

増減値の1カウントの補正時間は以下の様に求められます。

- RTCクロック周波数 :32768Hz(分周比1/2で16384Hz)
- 1カウントあたりの分解能:1/16384Hz=61.0351μ秒
- 補正インターバル :20秒

例1)1日に時計が3秒進んだ場合。

1日=86400秒 86400÷20=4320
 1日当り4320回補正インターバルが生ずるので
 61.0351μ秒×4320=0.2637秒/日
 3÷0.2637=約11カウント
 現在の設定値が10の場合、10+11=21を設定します。

例2)一週間に時計が7秒遅れた場合。

1カウントは、1.8457秒/週なので 7÷1.8457=約4カウント
 現在の設定値が21の場合、21-4=17を設定します

期 間	補 正 回 数	補 正 時 間
20秒	1回	$1 \times 1 / 16384 = 61 \mu\text{秒}$
1分	3回	$3 \times 1 / 16384 = 183 \mu\text{秒}$
1時間	180回	$180 \times 1 / 16384 = 10.98 \text{m秒}$
1日	4320回	$4320 \times 1 / 16384 = 263.67 \text{m秒}$
1週間	30240回	$30240 \times 1 / 16384 = 1.85 \text{秒}$
1ヶ月	129600回	$129600 \times 1 / 16384 = 7.91 \text{秒}$

7 別売りオプション

KADEC21シリーズの記録計を便利にお使いいただく為のオプション品をご紹介します。

・カメラ用電池ホルダ

カメラ用電池CR123Aは(二酸化マンガンリチウム電池)一般的に市販されている電池です。この電池でKADEC21シリーズを動作させると電池容量は、専用の動作電池(NRH-B06)に比べ約半となります。

※:CR123Aの電池容量はメーカー毎に違いがあります。

型式:KDC-B01-U21



・スーパーリチウム電池

Eメールモデル・EYE2用の耐環境用動作電源として、スーパーリチウム電池(5Ah)です。従来のニッケルカドミウム電池と異なり充電は出来ませんが、小型で大容量、しかも耐環境性が著しく向上しています。

※ショートや大電流放電による爆発・発火を防ぐためにヒューズを内蔵しています。このヒューズが切断すると、新品であっても電圧が0Vとなり、修理することができませんので取扱いには十分御注意下さい。

型式:KDC-B06-2



8 仕様

入 力 部	風 (2要素)	測定範囲/分解能	0~360° /1°
		出力/記録範囲	0~10KΩ ±20%/0~360
		適合センサ 処 理 方 法	シングルポテンショメータ式 インターバル前10分間のベクトル平均風向を記録します。 インターバル間の瞬間最大風速時風向 (インターバル間の瞬間最大風速のときの風向を瞬間最大風速時風向とします。)
	風 (3要素)	測定範囲/分解能	0~90m/s / 0.1m/s
		出力/記録範囲	0~918.3Hz / 0.0~90.0
		適合センサ 処 理 方 法	発信式または発電による周波数出力 インターバル前10分間の平均風向を記録します。 インターバル間の瞬間最大風速と起時 (インターバル間の風速データの最大値を瞬間最大風速とします。)
	気 (1要素)	測定範囲/分解能	-50~+100℃ / 0.1℃
		出力/記録範囲	抵抗変化 (JIS規格0℃/100Ω) / -50.0~+100.0
		適合センサ 処 理 方 法	白金測温抵抗体 (Pt100Ω / 0℃4線式) インターバル時の瞬時値または1分平均値を記録します。
	湿 (1要素)	測定範囲/分解能	0~100RH / 0.1RH
		出力/記録範囲	0~1V / 0.0~100.0
		適合センサ 処 理 方 法	静電容量式 インターバル時の瞬時値または1分平均値を記録します。
	雨 (1要素)	測定範囲/分解能	5000mm / 0.5mm
出力/記録範囲		1パルス / 0.0~5000.0	
適合センサ 処 理 方 法		転倒ます方式 インターバル間のパルス積算値を記録します。	
日 射 (1要素)	測定範囲/分解能	0~2KW/m ² / 0.01KW/m ²	
	出力/記録範囲	0~10mV (5mV/KW/m ²) / 0.00~2.00	
	適合センサ 処 理 方 法	熱電堆式 インターバル間の積算値を記録します。	
日 照 時 間 (1要素)	測定範囲/分解能	0~180 / 1min	
	出力/記録範囲	120w/m ² でON (接点信号) / 0~180	
	適合センサ 処 理 方 法	バイメタル式接点信号 インターバル間の日照時間 (分単位) データを記録します。	
気 (1要素)	測定範囲/分解能	600~1100hPa / 0.1hPa (オプション : 500~1100hPa / 0.1hPa)	
	出力/記録範囲	0~5V / 600~1100	
	適合センサ 処 理 方 法	半導体ゲージ式 インターバル時の瞬時値または1分平均値を記録します。	
電 (5要素)	入力チャンネル数	5チャンネル	
	測定範囲/分解能	0~±2V / 0.1mV	
	記 録 値	0~±20000	
記 録 部	測定インターバル	10、20、30分、1、2、3、4、5、6、8、12、24時間	
	記録データ	有電圧外部トリガによる測定動作 記憶容量 97,280個 (16要素で約311日分/1時間隔) 使用メモリ 不揮発性メモリ (バッテリーバックアップ不要) 記録内容 時刻記録方式 メモ機能 1要素の1データごとに日時/入力要素/チャンネル番号を同時記録 メモ数 : 6個 文字数 : 16文字 取扱文字: ローマ字、カタカナ、記号 記録方式 メモリスクロール方式	
	Eメール機能	通信方式	CDMA 2 0 0 0 1 X パケット交換方式 上り 1 4. 4 kbps、下り 1 4. 4 kbps
		接続インターバル	1 0 分、6 0 分、2 4 時間
		送信先数	通常データ・警報データ各6箇所
	通信機能	アンテナ	RFコネクタ (外部アンテナ) インピーダンス50Ω
		Eメール用電源	DC 1 2 V 電源、スーパーリチウム電池 (オプション)
		使用コネクタ	USB MINI Bコネクタ (ドライバは製品に添付または弊社HPよりDL可能)
	表示器	通信ソフト	KADEC21専用通信ソフトを使用 (無償配布) ※通信ソフトは、当社のホームページから無償でダウンロードできます。
		更新間隔	風向風速: 1秒毎、その他: 10秒毎
		表示器種別	キヤラクタLCD表示器
	操作キー	表示範囲	16文字×2行
		動作範囲	-20~70℃ ※-10℃以下では、表示がうすく表示レスポンスは多少低下します。
設定キー		押しボタンキー3個 (UP/DOWN/ENTER)	
標準機能	測定スイッチ	スライドスイッチ1個 ([REC]測定開始/[STOP]測定中断)	
	調整ボリューム	LCD表示器のコントラスト調整	
	フレタイマー機能	記録動作前に外部機器の電源をON/OFFする機能 リレーによる接点ON/OFFあり (2回路1接点) 設定可能範囲は0~30秒、1~59分 (初期値はOFF)	
電 源	フタスタート機能	指定した月日時分から測定動作が開始します。(初期値はOFF)	
	RTC調整機能	タイマー機能の進みおよび遅れの調整を行うことができます。	
	電池残量表示	内蔵電池の残量を計算によってLCD表示器に10段階で出力	
電 源	消費電流 (ロガー部)	測定時動作電流: 43~96mA スリープ時電流: 0.34mA 通信動作電流 : 48~98mA (通信ポートから電源供給可能なとき)	
	使用電源	リチウム電池パック (NRH-B6: ネジ固定方式) カメラ用電池 (CR123A) 専用ACアダプタ (DC9V)	
	搭載OS	I-TRON (リアルタイムOS) 採用により各機能が独立して動作	
動作環境	-25℃~+80℃ (オプション仕様: -40℃~+80℃)		
寸法/重量	240W×160D×91H/1.5Kg (突起物含まず)		

9 外形寸法

9-1 KADEC21-Me-N2

